
編集後記

6月の梅雨空の下、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、ほとんどの講義が遠隔実施となり、学生さんのいない校舎でこの編集後記を書いています。

2020年1月、中国武漢市で原因不明の肺炎が流行しているというニュースが届きましたが、それはあっという間に対岸のものではなくなりました。この間の本学の対応は40周年記念誌で語られることになると思いますが、10年たって風化する前に「激動の4月」の学内外の状況を以下にまとめておきます。

- 3月30日 富山県内で最初の感染例が報告
- 4月2日 本学は入学式の中止および授業開始の延期を決定
- 4月7日 国が7都府県に緊急事態宣言
- 4月8日 県より感染防止対策の要請、7都府県との往来の自粛要請
- 4月10日 本学は活動制限レベルを強化、全学生は構内立ち入り禁止、当面、すべての講義は遠隔で実施する事となった
- 4月16日 国が緊急事態宣言の対象を全国に拡大
- 4月17日 県が富山県緊急事態を宣言
- 4月22日 県から県内高等教育機関に休業要請、同日、2年生以上の遠隔講義が開始
- 4月23日 本学は活動制限レベルをさらに強化、教員は原則全員、事務職員も半数ごとに在宅勤務となる
- 4月29日 1年生の遠隔講義開始

現在、日本ではCOVID-19の流行は小康状態となり、本学も部分的に対面による授業が始まっていますが、大学が本来の姿を取り戻して学生さんでにぎやかになるにはまだしばらくかかりそうです。

さて、パンデミックという未曾有の状況下で、この編集後記も未曾有の内容となりましたが、記念誌を編集しながら、本学がこの30年の間に大きく枝葉を伸ばして大樹のように育っている事を実感しました。これからが本学の「実りの季節」であると期待します。

この記念誌を編集するにあたり、編集委員をお願いした高橋剛一郎先生、神谷和秀先生、石坂圭吾先生、占部大介先生には、要所々々で編集方針について貴重なご意見を頂きました。また、本記念誌をこのように立派に完成させる事ができたのは、事務局担当者の能登和浩氏、山本譲氏の献身的なご努力があつての事である、と最後に申し添えます。

令和2年6月29日
前、附属図書館長 福原 忠

富山県立大学三十年史 -2010. 4 から 2020. 3 を中心に-

2020年（令和2）10月 発行

編 集 富山県立大学三十年史編集委員会
編集長

発 行 富山県立大学開学30周年記念事業実行委員会
委員長
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL0766-56-7500（代表）

印 刷 株式会社チューエツ